

4. 駅及び周辺交通改善方策の今後の方向性

主な課題と今後の対応方針

主な課題

【待合い環境の整備・充実】

「整備済み」が5.6%と他の取組に比べて、大幅に整備が遅れている。また、沿線住民から改善を求める声が多く、鉄道事業者による取組の着実な実施が課題となる。

【エレベータの設置】【多機能トイレの整備】

沿線住民から改善を求める声が多いものの、エレベータ・多機能トイレ未整備駅の多くが乗車人員非公開の駅となっており、鉄道事業者との協議や各市の予算の確保が困難となっている。

【無人駅の有人化・駅無人時間帯の有人化】

61.1%が「計画段階」にあり、乗降時や緊急時における対応への遅れなど、高齢者や障害者等の移動制約者の安全性や利便性の低下が生じている。

【アクセス道路の整備・充実、駅前広場の整備・充実】

駅に接する道路の幅員及び駅前スペースの問題、並びに周辺のまちづくり計画及び財政計画との整合性など、事業推進の阻害要因が多い。

今後の対応方針

【待合い環境の整備・充実】

鉄道事業者の施策要素を多く含むため、「神奈川県鉄道輸送力増強促進会議」を通して要望活動を開始する。また、鉄道事業者の動向を窺いつつ、次の行動について検討を行う。

【エレベータの設置】【多機能トイレの整備】

「神奈川県鉄道輸送力増強促進会議」を通じて、無人駅等の乗車人員の公表を求めていくとともに、バリアフリー法（高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（平成18年6月21日法律第91号））に基づく基本方針に沿った整備を求めていくなど、鉄道事業者・県・各市が連携してバリアフリー化のより一層の推進に取り組む。

【無人駅の有人化・駅無人時間帯の有人化】

「神奈川県鉄道輸送力増強促進会議」を通じて、駅係員の配置を求めていくとともに、無人駅に関するガイドラインなどの今後の動向を踏まえ、今後の対応方針について検討を行う。また、自治体や民間企業、ボランティアとの連携など先行事例の情報収集を図る。

【アクセス道路の整備・充実、駅前広場の整備・充実】

各市町において、周辺のまちづくりとの整合性を取りつつ、今後の対応方針について検討を行う。



参考：直近の整備事例<倉見駅バリアフリー工事>

バリアフリー法に基づく基本方針では、平均利用者数3,000人/日以上以上の駅については令和2年度までに原則、バリアフリー化（現行：3,000人以上/日の施設及び基本構想の生活関連施設に位置付けられた2,000人以上/日）を実施することとされており、エレベータが設置されていない倉見駅では、誰もが利用しやすく便利で安全に駅を利用できるようエレベータ整備等が求められていた。

寒川町では、「寒川町総合計画さむかわ2020プラン」において、「公共交通機関をすべての人が安心して利用している」ことをめざす姿とし、「駅バリアフリー対策」を位置付け、整備に向けた取組を進めてきた。

令和2年1月に倉見駅のバリアフリー化工事に着手し、令和3年3月18日にエレベータや多機能トイレ等の供用を開始した。



駅舎（倉見駅）



エレベータ（倉見駅）